



● Fコース

タンポポ

- ㊦-1 シロバナタンポポ ㊦-2 在来タンポポ
㊦-3 セイヨウタンポポ ㊦-4 アカミタンポポ

太陽の光をいっぱい浴びて染まったように鮮やかな黄色いタンポポは、春の野原の女王のような花です。川やだんだん畑の土手、空き地、グラウンドなどに群がって咲いているところは、ほんとうにきれいです。

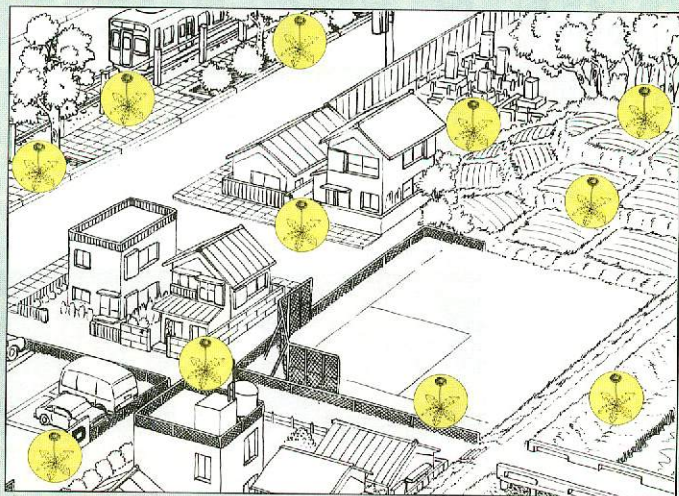
このタンポポにはいろいろな種がありますが、大きく分けると、昔から日本に生えていた在来の種と、明治時代にヨーロッパから持ち込まれて増えた外来の種があります。

在来の種は、北日本に生えるエゾタンポポ、関東地方のカントウタンポポ、関西地方のカンサイタンポポなど多くの種に分けられますが、この調査ではまとめて在来タンポポとして扱います。また、白い花の咲くシロバナタンポポも在来の種です。

外来の種は、セイヨウタンポポとアカミタンポポの2種に分けられます。

「タンポポコース」は、以上の4種を区別して記録することがテーマです。タンポポを見つけたら、見分け方の図をよく見てしっかり調べて下さい。

■ここを探そう



- タンポポは、舗装された道路の道ばたのような所にも、ひっそりと咲いている時があります。まったく自然がないように思えるメッシュでも、注意深く探してみましょう。

■タンポポの仲間の見分け方

まず、タンポポの仲間かどうかを確かめよう

チェック1

葉は根もとにまとまって生えているだけ。

チェック2

茎の先に1つだけ花がついている。

こんな草はタンポポではない



葉が茎にもついている



茎が枝分かれして花がついている



茎が地面をはっている

チェック3

花の色を見よう

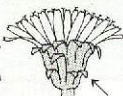
花の色は黄色

チェック4

花をつつむ部分(総苞片)を見よう

花の色は白

総苞片が
そらない



総苞片がはっきり
そりかえる

シロバナタンポポ



チェック5

熟した実(そう果)を探そう

そう果はうす茶色

在来タンポポ



そう果は
赤みを帯びる

セイヨウタンポポ



アカミタンポポ



*セイヨウタンポポとアカミタンポポは、必ずそう果の色を見て区別してください。花しか見つからなかった時は、5月に入ってからも一度調べてください。綿毛を飛ばしそうな実が見つかるでしょう。



F-1



シロバナタンポポ

●*Taraxacum albidum*

西日本に多く、タンポポといえば白い花と思っている人も多い。花はほとんど白で、中心部などがわずかにクリーム色を帯びる。大柄なタンポポで、そう果もいちばん大きい。



F-3



セイヨウタンポポ

●*Taraxacum officinale*

ヨーロッパ原産。明治時代に北海道に持ち込まれたのが最初で、その後全国に広がった。春に花が咲くが、ほかの季節にも数は少ないが花をつけることがある。



F-2



在来タンポポ

●Japanese native diploid
Species of *Taraxacum* spp.

土手などに生える草で、株は長生きで毎年花を咲かせる。暖かい所では真冬にも花が見られ、冬の花は茎が短く地面すれすれに咲いている。夏には葉が枯れる種が多い。



F-4



アカミタンポポ

●*Taraxacum laevigatum*

ヨーロッパ原産。日本に持ち込まれた時期はセイヨウタンポポとほぼ同じだが、それほど広がってはいない。市街地に多いようである。セイヨウタンポポよりも花が小さく、葉の切れ込みが大きいなどの特徴もあるが、**決め手はそう果の色だけである。**

■在来種と外来種の雑種について

近年、在来種と外来種との間に雑種ができてきていることがだんだんわかってきています。どちらか判断に迷うような時は、雑種の可能性もありますから、**今回の調査では、特徴のはっきりしたものだけを記録して下さい。**